

第1学年 国語科の実践

- 1 単元名 えやしやしんでたしかめながらよみましょう
いきもののあし

2 単元目標

- 絵や写真と文章とを結びつけながら、内容の大体を読むことができる。
- 語や文としてまとまりを考えることができる。
- 事柄の順序に気を付けて読み、文章の大体を読むことができる。
- 「問い」と「答え」とをつなげてとらえることができる。
- 「問い」と「答え」といった文と文との続き方に気を付けて、文章を書くことができる。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり

低学年ブロックテーマ 「感じる心、素直に表現する自分」

・人の言動に何かを感じる姿 ・自分の思いや、他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿
＜聞く・話すの指導について＞

「話すこと」では、授業では指名されたら、「はい」と返事をし、「～です。」とていねいな言い方をするということや姿勢や口形、声の大きさに気をつけて発言できるようになることを目指して学習を積み重ねている。しかし、すぐに反応し、つぶやいてしまうため、座ったまま小さい声で話してしまう。全体の前で大きな声で話すことについては個人差がみられる。また、話し方を意識しすぎると「わすれました。」と考えが話せなことが多いため、今は、思ったことを発言することに重点を置き、素直な思いを引き出しみんなに認めてもらうことで共に学ぶ楽しさを味わわせたいと考えている。朝の会のスピーチでは、好きな物について話し、「わけは、」を使って、短いながらも自分の言葉でわけを話すことに少しずつなれてきつつある。

「聞くこと」については、「まず、自分が話したい!」という気持ちの方が大きいため、話し手の最初の言葉に反応してしまう。そこで、今は、「最後まで聞きましょう。」と声かけをしている。また、ペアトークやグループ活動を取り入れ、相手の話を聞くことで発見する楽しさを味わわせているところである。

4 単元と指導について

＜単元について＞

本教材「いきもののあし」は、児童が初めて出会う説明的文章である。「あひる」「らいおん」「だちょう」のそれぞれの足の大きな絵とその生き物のきれいな写真は、子どもたちの興味をそそる。さらに、初めのページに足の絵と「問い」が書かれていて、ページをめくると次に生き物の写真と「答え」があるというクイズのような構成は子どもたちに親しみやすい。あひるやらいおんという生き物は普段から絵本や図鑑などで目にしたり、鳴き声をまねしたりするので、身近に感じられる生き物である。しかし、足に注目してきたことは、ほとんどないと考え。足に焦点を当てると足の働きやえさの食べ方など、生き物の生活が見えてくる驚きとおもしろさに、児童は興味を持ち、生き物に対する自分の学びも高められると考える。

また、文型も、児童が興味を持って読み進めていけるように工夫されている。1文は、「これは、何の足でしょう。」と問いかけている。2文は「これは、〇〇の足です。」と答えを述べて、3文は、足の描写、4文は、「だから、～。」と足の作りの良さを説明している。特に「これは何のあしでしょう。」「これは、〇〇のあしです。」という文型が3回 繰り返されていることが特徴的で、文型に慣れやすい。文章全体を通して説明されている事柄を 順序正しく読み取り、1年生なりに論理的思考を養うことも期待できる教材である。

<指導について>

児童にとって、初めての説明文である。そこで、「なぞなぞあそび」や算数の問題作りなどクイズを作る楽しさや「問い・答え・ヒント」を意識させながら、本単元の学習につなげていく。そして、学習課題を「クイズブックを作って、作ったクイズを、2年生に出そう」と設定することで、相手意識や読みの必然性が生まれ、児童の学習意欲を喚起することができる考える。

まず、オリジナルクイズをつくるために、どんなことが書いてあるのかという意識で読み進めていく。「いきもののあし」の教材文を読んで、「問い」と「答え」の関係を見つけながら内容の大体を読み取らせたい。「問い」→「答え」→「説明1 足のつくり・特徴」→「説明2 はたらき」という四文のつながりをとらえるために、写真と文とをつないで説明をさせたり、接続語「だから」のはたらきを考えさせたりする。

次に、3種類の生き物を比べながら読ませることで、文章構成や足の形態はえさを摂取することと関連していることに気づかせ、いきもののあしクイズブックを書く時に活用させる。クイズ作りでは、全員で遠足に行った野毛山動物園のいきものについて、「いきもののあし」の教材文で学んだ文型を元にクイズを作る。そして、そのクイズ作りの方法を活かして、なるべく自分の力でクイズ作りに取り組めるようにしたい。ただ、個人差があるので、自分で生き物を決められない児童や説明の仕方が分からない児童のために何種類かの画像や絵本や図鑑をあらかじめ用意したい。

最後に、クイズを友だちと一緒に楽しむ活動や2年生にクイズを出す活動を取り入れることにより、学習の達成感も味わわせ、入門期の学習として楽しめるようにしたい。

入門期の子どもたちであるため、生活「はるのいきものをさがそう・こうえんへいこう」算数「かず」音楽「でんでんむし」図工「じっくりみて、いきもののえをかこう」と合科的な扱いで、本単元も位置づけている。生き物を見て、触れて、調べる活動を通して、ぬいぐるみや絵本の中での動物だけでなく、自然の中にいる生き物の暮らしを知ることの楽しさをみんなで共有し、「生きる」ということについて、1年生なりに気づいてほしいと願っている。

ここでの解決したい課題は、**動物クイズをつくりたい**そして、**友だちに出したい**ということである。自分たちが興味のあることを調べ、クイズシートに形に表し、それを友だちと楽しむところにも思考することや関わることを意味を知ると考える。また、本時では、これまでの学習を生かし、ダチョウの足のつくりだけでなく、獲物や居住地と足のつくりの関係性に気づいたことや考えたことを話し合う姿を響き合う姿としたい。また、この話し合いが、「生きているということ」を、考えるはじめの一步にしたい。

5 単元構想 単元のねらい

全7時間 本時3時間目

- 絵や写真と文章とを結びつけながら、内容の大体を読むことができる。
- 語や文としてまとまりを考えることができる。
- 事柄の順序に気を付けて読み、文章の大体を読むことができる。
- 「問い」と「答え」とをつなげてとらえることができる。
- 「問い」と「答え」といった文と文との続き方に気を付けて、文章を書くことができる。

<合科的な学習>

国語
「ともだちとはなしまし
う」
・友だちのことを知るのは楽
しいな
「たぬきのじてんしゃ」

生活 「はるのいきもの」
・たくさん生き物を捕まえないな
・野原にはたくさん虫がいる
・どんな虫がいるのか調べたいな。
・育ててみたいな
・調べたことを、クイズにしたいな

図工
「虫の絵を描こ
う」
・本物みたいにか
きたいな
・図鑑をよく見て

音楽
「でんでんむし」
・あたま、つなど
体のつくりの言葉
っていっぱいある
んだな

朝の会・帰りの会
なぞなぞあそび
・クイズに答えるのは楽し

- ・ 虫には、すんでいるところや食べ物、同じということがあるんだね。たとえば、チョウチョとみつばち バッタとキリギリス
- ・ 友だちとクイズを出し合うのは楽しいな
- ・ 虫だけではなく、動物も調べて、みんなにクイズを出したいな。

生き物に興味を持つ



動物クイズを作ろう！

生き物の足の特徴や働きに関心を持ち、読み進めたり、調べて紹介したりしようとする。 関心

生活
「コスモスの使い方」
「動物園へ行こう」

- ・動物のことをもっとしりたいな。
- ・動物のことを調べてこよう
- ・相手に分かりやすいクイズはどうやって作れるのだろう。
- ・クイズの作り方を知りたいな。

国語 「いきもののあし」で問題の作り方を知ら

- ・教科書「いきもののあし」で、作り方を勉強しよう。
- ・クイズになっていて、おもしろそうだね。
- ・絵や写真もいいね。

①「これは何の足でしょう？ あひる」

→

- ・あひるのあしって、みずかきがついているんだね
- ・はやくおよぐためなんだね。
- ・えさをおいかけられるのかな？
- ・問いの文と答えの文があるんだね
- ・説明の文もあるよ

②「これは何の足でしょう？ ライオン」

→

- ・くまみたいだね
- ・つめはないんだね
- ・つよいのに、そっとちかづくんだね。
- ・説明の文には、作りや特徴が書いてあるんだね

③「これは何の足でしょう？ だちょう」

→

- ・おおきいのに、にげるためになるんだね。
- ・はやくはしるためにあるんだね
- ・生きるために、足の形が違うんだね
- ・作り方が分かったから、じぶんでつってみたいな。

行事 遠足 「野毛山動物園へ行こう」

- ・どうぶつがいっぱいたね。
- ・飼育員さんの話も聞いて良かったね。

④自分で問題を作ろう

- ・どんないきものがいいかな
- ・説明するところをくわしくしらべよう
- ・うまく作れるかな
- ・カードがあるとうまく作れると思う

⑤⑥クイズのカードを作ろう

- ・動物園にいた動物について、詳しく描こう
- ・丁寧に分かりやすい文章で書きたいな。
- ・問いと答えの絵もきれいに描きたいな

⑦クイズ大会をしよう

- ・こたえてもらえるかな？
- ・他の人にも聞いてもらいたい
- ・友だちのクイズを聞いて、動物のことがよく分かった

○3つの足についての説明が、それぞれ問いと答えになっていることを知る。
○足の特徴や働きを理解する。
○足の形がいろいろなのか考え生活と結びついていうことに気づかせる。

絵や写真と文章を結びつけながら、それぞれの動物の足の特徴や働きをとらえ、文章の大体を読むことができる。

○動物園にいた動物の絵から、何を食べているか想像させ、みんなで、クイズを作る。
○教科書の中や図鑑からクイズで出題する鳥を選んでしらべる。

知っていたり調べたりした動物の足の特徴や働きを説明する文章を文と文との続き方に気を付けて書くことができる。

本時の目標

[illegible]

＜成果と課題＞

はじめは、足では、走ったり歩いたりすることから、形が違うという一面的な理解はできるが「なんのために」という深い読み（それぞれの生き物が生活している環境によって形が違う）というところに気づいた子は、数名であった。「イメージする力」を高めたいと考えたため、最初の段階で絵や写真、動作化にかなり時間を使った。「言葉と写真」「文と写真」「言葉や文を動作化」のつながりを明確にし、板書などで共通理解させた。そして、「言葉や文」に着目し考えをもつようになってきた。

最初の单元から、挿絵や写真、具体物、生き物図鑑などを多く使いながら、言葉からイメージできるように工夫してきた。最初のうちは、言葉からイメージするということができない児童も多く、「絵にも表せないし、どういえば言いかわからない・・・。」という児童が多かった。そこで、図鑑を身近なところに置いたり、絵カードを貼ったりして、絵や写真を活用してきた。そのため、子どもたちは、イメージできないときは、家の人や友だちに聞いたり、図書室に行ったり、図鑑を見たら何かわかるかもしれないと思えるようになってきた。

ダチョウの動きを動作化した。違いがあったが、そこで、言葉で伝え合わず動作だけでおわってしまった。動作を言葉に言い換えて、子どもの言葉で話し合うと、理解や読みが深まった。